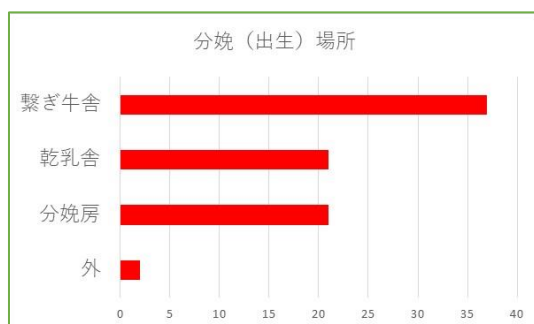


あしよろ・ハードサポート通信

年が明けて晴れの日が続いています。現場を歩いていると水槽や窓のしぼれ、エサの凍結、建物の結露などの話題が多く、雪が少ない代わりに冷え込みが厳しい印象です。

さて昨春以降、町内の酪農家さんに哺育育成牛の飼養管理についての聞き取りを実施しました。その内容を今月・来月に渡ってご報告します。

◆ どこで分娩・出生させますか？

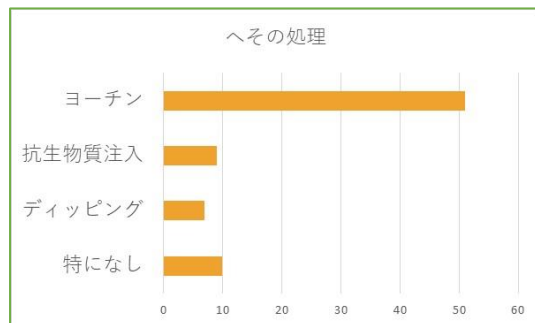


分娩場所は、乾乳舎や分娩房など、一定のスペースが確保され、寝起きしやすく、清潔であるほど、難産などの異常分娩が減り、母牛の立ち上がりが良好なこと、新生子牛が糞尿で汚れないほど健康度が上がるなどがわかっています。

町内では、繋ぎ牛舎での分娩が最多でした。繋ぎ牛舎のメリットは観察のしやすさで、酪農家さんの分娩前の「見回りの頻度」がとても高かったです。

反面、繋がれて自由度が低く、子牛が糞尿で汚れるリスクが高いため、難産や母牛の立ち上がり、臍帯炎などのトラブルが気になる場合は、分娩場所の工夫を検討します。

◆ 子牛のヘソの処理はどうしていますか？

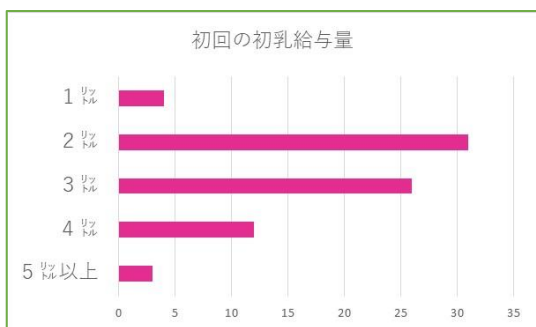


臍帯炎やヘルニアは、ヘソから雑菌が入ることで起こります。ヘソのトラブルが続くときは、出生後の子牛のヘソをとにかくドライにすることを意識し、併せて、掃除の頻度を上げ、分娩場所の衛生度を高めましょう。また、初乳給与での免疫移行が上手くいっているのかも見直します。

出生後の子牛のヘソに残っている水分を搾り出し、ヘソの根元からしっかりヨーチンをスプレー、または浸します。ヨーチンはヨウ素濃度5%以上のものを選びましょう。希ヨーチンはヨウ素濃度が3%以上と薄いのでご注意ください。

ディッピング剤は搾乳前後に使う目的のため、ヨウ素濃度が0.5～1%で、その上、乳頭を守るための保湿剤が入っており、ヘソを乾きづらくしてしまいます。

◆ 出生後の初回の初乳給与量は何リットルですか？



初乳は常乳と違って、免疫物質が多く含まれており、その初乳を新生子牛にすばやく、たっぷり飲ませることで、将来の健康度と生産性が高い子牛へと育っていきます。

町内も初回で3リットル以上飲ませる酪農場が増えました。生まれた直後は飲まないという

声もありますが、確実な初乳給与は子牛の一生を決めるとても大きなカギです。小分けにしてでもたっぷり飲ませていただけたらと思います。

初乳の保存法では、冷凍保存がメインでしたが、常温保存も思いのほか多かったです。冬は気温が下がるので凌げるかもしれませんが、一般的な冷蔵庫内の温度は5℃前後で、それ以上の気温下での常温保存は、置いておくほど初乳中の細菌数が爆発的に増えるリスクが高まります。冷蔵庫での保管、流水で冷やす、などを実践していただきたいです。

◆ どのような寒さ対策をしていますか？



寒さ対策でカーフジャケットを着せている酪農家さんがとても多く、冬が厳しい足寄町ならではの感じました。

新生子牛に温風を当てて身体を乾かすカーフウォーマーを活用している牧場も増えました。生後すぐの子牛だけではなく、下痢などで体調を崩して食欲がなくなった子牛をウォーマーに入れて身体を温めてあげると、またミルクを飲むようになるよ、という声も聞きました。(久富聡子)



(写真左)フカフカ麦稈、カーフジャケット、耳当て (写真右)元気が良すぎてウォーマーのフタを開けて飛び出てしまった子牛

- ・ 1月22日(火) 11時から、JAあしよる本所2回会議室で第5回酪農女性勉強会「乳検の読み方」を開催予定です。昼食持参でぜひご参加ください！
- ・ 今月、来月のあしよるハードサポート通信で取り上げている“哺育育成牛の飼養管理についての聞き取り結果”の報告会を2月に実施予定です。